

輝け！ 千代田

会長 鈴木 精成

新年 明けまして
お目出とうございます。
ご家族お揃いにて新しい年をお迎え
のことと存じます。

春ここに

生まるる朝の 陽をうけて

山川草木

みな光あり
佐々木 信綱

初春の輝かしさを心一杯に感じさせ
られます。

岳精流日本吟院

ちよあ

第 5 0 号

平成 2 7 年 1 月

千 代 田 岳 精 会 弘 報

平成廿七年岳精流指標

日に新たに

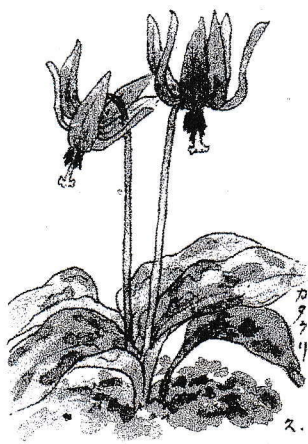
昨年、私は、私どもの「吟楽」活動も例
年以上に充実した一年でした。春の例
「昇伝審査会」での一九一名の受審は
過去最多。六月の「全国吟道大会」に
三河への一、二名の参加は見事、い
ずれも千代田の歴史に語り継がれるも
のでしよう。二グルーブに別れての温
習会は、台風の影響で第二グルーブが
今年（二月三日）に延期されましたが
盛会裡に開催された第一グルーブ共々
成功間違いないです。
昨年十一月廿日開催の「宗家詩吟公
開講座」は千代田の総力結集の大成果
でした。肌寒さと予想外の降雨にも
拘らず、お客様二五〇名と会員皆さん
が、三五〇名定員の会場を埋めた様は
壮観でした。皆さんの積極的な働きか
けが功を奏したものと感じます。当日
の宗家の講演も、熱意溢れるもので、
二時間をブツ通された熱演に感動いた
しました。この「公開講座」をキツカ
ケとした、大勢の入会者がお誘い出来
たと思います。これこそ最大の成果と
言えます。ご協力をお願いいたします。
また、次の前年右記のようない成果と
も、この中にあって、年年初に比べ会
員増加の場が十数にのぼりました。増
二、プロックの一体感が一層強くなっ
た。（「温習会」等を通じて）
三、各種研修会が、参加者も増え活
だった。特に女子部研修が、年間三
回の成果を踏まえて、今年は見事の
ような事柄に取組んでいき、と思

ます。

スローガン
「ブレ三〇・輝け！千代田！」

- 一、平成二八年（来年）に迎える「千
代田岳精会創立三十周年記念大会」
の準備スタート。
- 二、第四七回全国吟剣詩舞道大会「合
吟コンクール」への単独チーム参加。
- 三、諸研修の継続開催。
- 四、「昇伝審査会」の開催。
- 五、四月十九日（日）に実施するので、
予め予定をたて、全員参加されたし。
「吟行会」の開催。

最近お聞きしたことです。徳本清
水、教場長が、前田前ハザマ教場長（故
人）犬飼ハザマ副教場長と続けて来ら
れた「吟詠」訪問が今年八月目を迎える
とのこと、そして鎌ヶ谷教場の特別養
護老人ホームでの年一回の「詩吟の集
い」も今年で一〇周年だとのこと。そ
れぞれの関係皆様様の地道なご努力に心
から敬意を表するとともに、私どものも
「吟楽」のあり様への示唆をいただい
たと思います。
「アラフオー」ならぬ「アラ傘（ア
ラウンド傘）」という言葉を最近知り
ました。吟詠の力一杯の声とともに、
この言葉も躍っています。



星野久風（清水）

宗家公開講座開催

宗家「公開講座」開催
プロジェクトリール

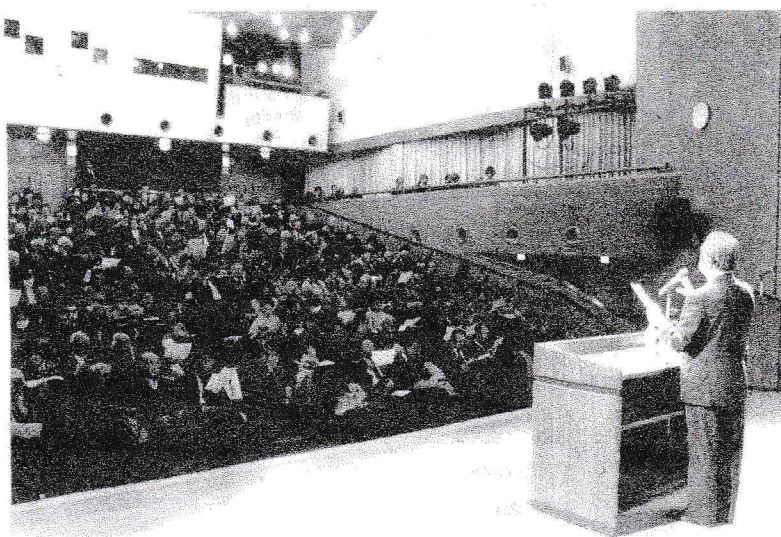
酒井 帆風

昨年、初めての試みとして下田岳精
会で実施され、大変な反響が報告され
た宗家の詩吟講座を千代田主催の公開
講座として業務推進委員会が担当して
十一月廿日（木）に開催された。
これまでに詩吟と縁の少ない方々に
宗家の詩吟を聴く事で関心を深めて頂
くため、お客様が集まりやすい会場と
して、推進責任者酒井副会長が手配した
のは、都内人気NO.1の吉祥寺駅から
一分の定員三〇名の武蔵野公会堂。
宗家が初めて都内で開催する公開講座
として、是非満席の参加者にしたいと
会挙げて取り組むこととし、
①全会員が一人以上の新しい方を誘う
②地元武蔵野市の広報に開催広告を出
す。
③近辺で新聞の折込みをする
④総本部課題別プロジェクトの支援も
得て、チラシ作成に入り、八月から教
場毎に①から丁夫を凝らしてスタート
した。各教場の反応に業務委員会は期
待より不安の方が大きかったが、九月
の各教場の状況は定員を超え、勢いで、
②活動は中止し参加者の確定に、変
更となった。
当日は肌寒い曇天だったが、コート
姿の入場者が続き、定刻の鈴木会長の
挨拶時には、ほぼ満席状態となる盛況。
宗家の「寒梅」も、二時間の予定時間
休みなしの熱演となった。
いくから、お客様をどのようにつなげて
いくか、教場、会員に期待します。



十一月廿日、吉祥寺「武蔵野公会堂」
に於て、鈴木会長の提唱、業務推進委
員会企画・担当の千代田岳精会主催の
宗家「公開講座」が開催された。会場と
なつた公会堂は、古いが階段形式の椅
子席三〇〇人を収容できる格式ある会
場であつた。今回の宗家公開講座は、
初めからのケースとして企画されたもの
であつたが、漢詩も、詩吟も初めての
聴講者で三〇〇人会場を満席にし、
と言ふ試みについて、千代田全員の不
安を含めた共通の認識であつた。
当初は、一〇〇人を確保しようとの
目標であつたが、何れにせよ、千代田
会員全員の努力を結集して取組もうと
言ふ事になった。廿八教場の教場長を
中心に参加予定者のデータを集計した
結果、誰かが驚いたことに三〇〇名
近い人数が集計され、参加予定者が報
告され、消防法の規制による三五〇名を
大幅にオーバーして、当日は宗家の吟
をロビーで聞かざるを得ない会員が二
〇名程度出た。
この超満員の盛況の中で、宗家は、
漢詩「寒梅」の吟と、作者新島襄の人
生について情熱をもつて語られ、吟じ
られ、休憩時間を惜しんで、二時間に
亘つて熱気が続いた。
既にこの会を契機に、入会の申し込
みの話も出ており、今回の二五〇名の
名簿は、我々の貴重な資料として今後
数年にわたつて千代田発展の財産とし
て生かされていく事になると思ひます。
講座の開催に当たつては、カラー

ンフレット五、〇〇枚の印刷につい
て本部園田先生の一方ならぬ援助を
戴き、又当日は秋山先生、青柳先生の
ご参加も得ることが出来ました。
講演会に使用された印刷物、カラー
ペーじ八〇〇枚を含む三、二〇〇枚、
製本四〇〇冊についても一部の教場有
志の早朝からの強い支援、協力を受け
たが、当日の運営、特に駅から会場迄
の案内等「会員の皆様方の絶大なる協
力の結果である」と会長以下、業務推
進委員会一同、ここに強く感謝申し上
げます。
この公開講座をきっかけとして、全
国の岳精会に、講座開催の動きが広
がり、新しい時代の展開が生れてくる事
を祈ります。



廿七年研修計画

会長の廿七年スローガンの三、諸研修の開催の内容と予定

○ 教場長研修会 (会長主宰)

一月三〇日 (金) 八月廿八日 (金)

○ 副教場長研修会

三月五日 (木)

○ 女子会員研修会 (女子部主催)

本部前澤副幹事長 三月十六日 (月)

五月廿九日 (金) 七月三十一日 (金)

一〇月三〇日 (金)

○ 階層別研修会

① 有伝層研修

四月三〇日 (木) 十一月廿六日 (木)

② 中堅層研修

三月廿六日 (木) 九月廿四日 (木)

③ 初級層研修

二月廿六日 (木) 八月廿七日 (木)

※一、会場 新宿ビルB1第四会議室

二、時間 各十五時〜十七時

詳細はその都度改めて案内します。

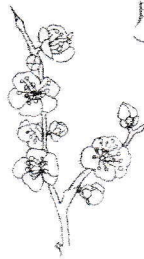
○ 月曜会 (副幹事長会主催)

月廿六日 (月) 三月三〇日 (月)

五月廿五日 (月) 七月廿七日 (月)

九月廿八日 (月) 十一月三〇日 (月)

十二月廿一日 (月)



秋の昇伝審査

毎年、文化の日に実施される奥伝以上・師範審査が今年も川崎保育会館で行なわれ、廿八名の方が受審、全員が優秀な成績で合格しました。お目出度うございます。

皆伝	東陽町支部	太田 龍箭
奥伝	八ザマ支部	城戸 龍箭
奥伝師範	神田支部	島田 華城
中伝準師範	神田支部	山口 勝風
	丸二支部	山崎 楊風
	八ザマ支部	粕川 絃風
	八ザマ支部	萩原 晴風
	八ザマ支部	石尻 映山
	八ザマ支部	鈴木 勝山
	八ザマ支部	丸山 政山
	八ザマ支部	山本 育山
	八ザマ支部	小柴 忠次
	八ザマ支部	加納 藤山
	八ザマ支部	柳川 隆山
	八ザマ支部	鎌ヶ谷 交山

した。目を通して呆然自失とでも言いたくはなかつた。その時岩崎先生の音読百回を思ひだした。まず毎日音読に励み、月日はどんどん流れて行きます。節調が思うように取れない暗澹たる気持ちになつた。どこかに上手に吟じようと言ふ思ひ上がりがあつたのではなかつた。もつと真摯になれ！自分に語りかけた。家中に吟題をベタベタと貼り、川崎に泊まりこみで磯田先生の最後の特訓があり「よし、そのまま自然休でいけ」家元の前に吟じ終えたのでした。合掌

「皆伝」審査を受審して 顧問 城戸 精城

入会して十九年、この度「皆伝」を受審することが出来た。今回の審査は今迄よりも最高のプレッシャーと「重み」を感じ緊張の連続でした。当日の審査はかつて我孫子カルチャで平成十年から約五年間、指導頂いた家元横山岳精先生の担当グループに入り、十一年振りにご審査の機会に浴しました。課題吟は二題で新体詩「春」と七言律詩「笛を吹く」で詩文を覚えるのに苦勞しました。律詩は去る九月廿九日、有伝者研修会で多少勉強しましたのでこの吟であらばと内心思つておりまして、家元から「春」を吟ずる様指示され、ゆつくり詩情を前に出して一番を吟じました。特に誤りの指摘を受けることもなく安堵いたしました。吟者へ向けられた鋭いご指摘と温かい内

容のあるアドバイスを頂き感激の一日で
した。これからは家元の「言葉をはつきり」
「詩心表現を大事に」という当日の教
訓のもと、与えられた高い段位に恥じ
ない様に精進し、吟友と健吟、吟樂の
人生を歩み続けたいと思います。
審査を終えて、今「春」を二番迄続
けて吟じたかったと言う思いが湧いて
きた心境は、いかに吟が人生の友で、
吟が好きかを再認識した事です。
先輩、吟友に支えられて今回受審出
来たことに感謝の気持ちで一杯です。
有難うございました。

尚一層の精進を

清水 山口 勝風

退職を機に、友人の誘いで入会しま
した。この度は、奥伝審査を受ける事
になり、いつもの事ながら緊張しまし
た。吟を習い始めて間もなく十二年にな
り、その間の履修曲は四四〇吟を越え
ました。様々の先生方からのご指導を
頂き今日に至ったことに、心から感謝
しています。毎日です。いずれは習う立場
から指導する立場になると思うと、尚
一層の精進をする覚悟です。
これからはコンダクターの習得も視
野に入れ、吟縁に感謝しつつ、一日一
日を過ごして行くつもりです。

奥伝審査を受審して

神田 山崎 楊風

この度、「風」の雅号を頂けること
になりました。
最初の雅号「泉」を頂いた時、目

を「風」になりたいたと憧れを持って思
いました。音痴の私が苦節十二年生、思
先輩方に大変迷惑をお掛けし、熱心
なご指導に助けられてきました。その
なかで詩吟の素晴らしさを知る事が出
来、何とか憧れの「風」の雅号に辿り
着く事になりました。嬉しく思い感謝の
気持ちで一杯です。
これから、頂いた雅号に相応しくな
れるよう研鑽・努力し、友の輪を広め
るよう心掛けていきたいと思ひます。
先生、先輩、後輩の方々、今後もし
ろしくお願いいたします。

奥伝師範を拝受

神田 粕川 絃風

奥伝師範の受審は、自分の吟を見直
す良い機会となりました。十余年の吟
道を顧みる時、大きな転機にさしかか
ったように感じられます。今迄ご指導
賜ったように流統の教えを、深く学び、新し
い吟友に確り伝える事が努めだと思ひ
ます。それには一層の研鑽努力をしな
ければと考える次第です。
十三年前、千代田岳精会神田教場に
入会した当初は、結構楽しく吟じられ
ていたのですが、奥が深く難しく感じ
られるようになって、奥が深く難しく感じ
上達しない、もどかしさで未熟さを感じ
じ、もう止めようかと思つた事が幾度
と有りました。その都度、「真善美」
の真情を唱えて初心に戻り真面目に学
ぶことが大切だと思ひ直して続けて参
りました。これは偏に先生方の教えと
吟友に支えられてきたお陰と感謝致し
ます。
最近では、クラス会や忘年会等、大勢
の集まりで吟じる機会が有り、一生

命吟じると、素晴らしいと誉められた
り、吟を習いたいたう方が現れたり
すると、この上ない喜びを感じます。
奥伝師範を拝受したからは生涯学
習に吟道を取り組み、新しい吟友を増
やして、共に学び、吟を通じて、世の
為に貢献しなければと思う昨今でござ
います。

褒められおだてられて
新宿 小柴 藤山

詩吟を始めて八年。
始めた頃は、声もなかなか出ません
でした。それでも先生に褒められ、お
だてられます。それが判るのですが、一
度も辞めたいと思つたことがありませ
んでした。
これも諸先生方、諸先輩方のご指導
の賜物と感謝しております。
これからは、吟を勉強して仲間を増
やしたいと思ひます。
きたいと思ひます。

中伝師範としての想ひ
ハザマ支部副教場長 石田 勝山

中伝準師範の試験を受けることとな
り状況を聞きますと筆記と面接の試験
がある、試験等は企業に就職の折他
が度か有り、試験等は年齢的には心配で
ありません。年々心機一転、詩吟芸
道の試験、恥を忍ぶも男の人生、浅学
菲才で生きて来た何を今更と思ひ審査
を受ける事にしました。
試験当日は記憶もあいまい、面接も
程々何とかやり過ぎることが出来まし
た。準師範合格後は指導者としてどう
か、以前に「嘶家」に上手下手はあるけ

れど行く先々の水に合わねば」と言う文句を思い出した。岳精流の流統を正しく伝えられるか、これから漢詩、歴史、作者等々老いての勉学がどこまで通用するか努力あるのみです。諸先輩及び諸先生方々の一層のお力添えをお願い致します。

準師範と言つても、実力は？

新宿第三教場長 加納 隆泉

準師範の試験——半世紀以上も前の入社試験以来のペーパーテストは不出来、あまりにも日頃の勉強が不足していることを痛感した。ボランティアなどあれこれ手を出し過ぎていて時間が無いのも事実だが、他の皆さんに比べ熱い、吟を三番目に置いていた咎か？酒井帆風新宿ブロック長から言われ名前だけの教場長を引き受けて以来、吟を第一順位にしたが、なお不十分なことを実感している。

「指導とは伝達、ともに学ぶ姿勢が大切」と言え宗家の言葉を肝に銘じ、第三教場ばかりでなく、新宿ブロックの諸兄弟とともに勉強し、名実ともに教場長の役割を果たしたいものだ。

中伝準師範を受審して

ハザマ支部 鈴木 政山

今年で私は岳精流に入会して足掛け八年となり、準師範を受験する資格を得ました。勿論受験する積もりでいましたので、教場の詩吟練習後先輩方に今迄の試験内容を尋ねたところ、中々難しいとお話でした。しかし千代田では、事前に傾向とその対策を指導し

て頂けると言う事ですので一寸安心した次第です。その後、十月中旬勉強会をして頂き受験に對する心構えが出来たので気持ちも楽になりました。吟道の先輩方と共に試験に臨みました。試験会場では普段三人掛けの机が一人づつの配置になっており、六十後年前の学生時代の試験を思い、なつかしく感じながら問題、答案を記入し提出致しました。提出後今迄を省み乍ら、更に吟道の基本を確り身に付けて行かねばならない気持ちを感じました。

午後の面接で、奥村先生から今日から吟道の指導者になったのですから、今後は「教える事は学ぶ事である」その為には吟の研鑽と品性の向上に努めて下さいとのお話を頂き大変参考になりました。

私はこれ迄にも増して、吟道に励み良き指導者を目指して頑張つて行くつもりでございます。

最後にこれ迄ご教授下さった千代田岳精会の会長さん他顧問の先生方には感謝を申し上げます。今後もし宜しくご指導下さいますようお願い致します。

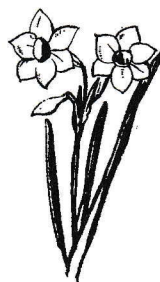
中伝準師範試験を受けて

ハザマ支部 丸山 育山

現役の仕事をして卒業し少しゆつくりしようと思つていた時、義母から生涯吟道に取り組むことにより、新しい吟友が増え一層活気が出て毎日が楽しく過ごす事が出来ると勧められた。その時私は詩吟は高齢者が学ぶことだと思つていたが、急に詩吟を習つてみようとその気になり、早速ハザマ教場に入会することになり、その時年齢は七十一歳でした。月三回の練習、会長、

教場長、先輩方が優しく指導して下さい。家に帰つてからも一生懸命練習しました。ある時妻から上手になったねと褒められ、応援してくれているんだなと嬉しく思いました。本人は吟を覚える事だけでストレスが溜まり苦しい日々もありましたが、早や八年の歳月を無事過ぎす事が出来、もう少し若い頃から習えば良かったなあと反省、この度、中伝準師範の試験を受ける機会を頂き、徹夜で勉強して試験場へ向かいました。

今年も宗家横山精真先生の平成廿六年度指標「本気」で生涯学習の「吟道」に取組み吟友の増員等に尚一層の努力しようと思つて居る機会に致しました。今度、田舎に帰る機会が有りましたら詩吟を勧めてくれた義母に中伝準師範の試験を受けた事を報告しようと思つています。



吟剣詩舞道大会合吟コンクール
日本武道館に二年振りに出場

外部の支援を頂いて再開された合吟コンクールが十一月九日(日)日本武道館で開催され、出場した総本部男子に千代田からも五名が出場しました。結果は八位入賞と大健闘でしたが、惜しくも三回連続メダル獲得には届きませんでした。出場の皆様ご苦労さまでした。

出場者 宮野幸泉(東陽町支部)
宇田川静泉(新宿) 湯浅和美(中野)
平井茂行(神田) 石井 浩(新宿)

年男。年女

今年の干支は乙未です

七回目の年男になつて

丸の内第二支部 森田 準泉

七回目ということとは、今年八十四歳になることです。男の平均寿命は越えなわけですが、家元やその他長寿の大先輩が数多おられる中では決して自慢できるような事ではありません。然し、同年やもつと若い人々でも亡くなつて行かれる方がある中で、ともかく元気でいられるのはひとえに毎週大声で詩吟を詠っているお陰と思つています。声を出すだけではありませぬ。教場に來れば、磯田先生や岩崎先生、木下先輩などお元気な方々に接するだけで負けてはおれないという気分になさせてくれます。私は詩吟の他に日本民謡も習つています。この先生も今年九十歳になりま

指導を受けて大声を出せる趣味を持つて本当に幸せだと感謝しています。

詩吟の世界に入つて 調布 吹田 澄代

馬齢を重ねて幾年月：この歳になつて詩吟を始めるとは考えても居りませんでした。ある日、友人に誘われ調布教場に伺いましたところ、磯田先生の吟を拝聴することが出来、素晴らしい美声に感動し早速お仲間に入れて頂きました。とところが大誤算、お腹に力を入れて（こ

れがなかなか難しい）大きな声を出してと悪戦苦闘して居ります。先日は、初めて女子部研修会に参加致し皆様の熱意に感心し、そして大いに反省致しました。人生は勉強の連続と申します。諸先輩方の吟に対する情熱をお手本に精進して参りたいと存じます。

早くも三年を迎えました 神楽坂 高島 洋子

主人の秘書役として入会させて頂き早や、三年を迎えようとして居ります。私にとり、馴染みの薄い漢詩の世界で作者の心情を理解しながら腹式呼吸の発声で吟ずることの難しさに、戸惑いを感じつゝ、今は出来るだけ日々声を

出す習慣を身に付ける様心がけて居ります。超々高齢者となりました私ども二人をいつもお見捨てなくご指導下さいます。耳塚昇風先生はじめ諸先生がた諸先輩の方々に心から感謝申し上げます。微力ではございますが、千代田岳精会の一員として研鑽を重ねて参りたいと思つております。

吟を楽しみ 我孫子 佐藤 一泉

年男の年頭に當つて、自分の歩みを回顧しますと、岳精流の詩吟に出合えた事は私にとって最も幸運の一つであると言います。私が吟を始める切っ掛けは大学の先輩で会社の元上司の強引な誘いでした。先輩とは、昨年鬼籍に入られた前鎌倉教場長の高橋辰風さんです。改めてご

冥福をお祈り申し上げます。（合掌）蛇足ながら、高橋さんが吟に入る契機は得意先のN自動車会社のT氏の勧誘でした。私も同席してお誘いを受けました。が、若いこともあってお断りしました。今にして思えば一緒に始めておればと残念でなりません。話を戻しますと、高橋さんの強引な誘いで、平成廿一年九月松戸分室へ入会しました。この間五年余、二宮先生の懇と移転した。我孫子教場と名前が 바뀌りまし。丁寧なご指導を頂き、然も会員が少な

ないの。密度の濃い教場です。鈍感でいて頂いています。そして、行けるよう導後懇親会での先生手作りの酒肴は絶品です。楽しい吟と美味しい肴、正に至福の時です。更に吟で感動しているのは、卒寿を越えられた方や高齢の諸先輩が矍鑠として、若者の如く顔が輝き欣然として吟じられておられる事です。一杯吟じたいと思つております。これからは「吟を楽しみ、されど満足せず」を座右の銘にして、課題を一つ一つ克服したいと念じております。

奥深い吟の世界 犬飼 勇山

千代田岳精会に入会し、今年で丸七

選したり、と色々な経験をしてみたり、六本で吟じるのが苦しい事もありました。その都度、諸先輩方から多方面に亘る親身な指導を頂き、知れば知る程、吟の世界は奥深いなと、ビックリしながら感謝する毎日でした。昔から『ハザマ十年』と言う言葉があり、十年やらなければ偉そうな事は言えないと教えられてきました。あと三年頑張れば準師範になれ、熱海の研修にも出させて頂けるようになるでしょうから、より一層の技術の飛躍も期待できると思います。健康のために始めた吟ですが、この分ですと百歳まで続けそうかな？

年男の願
ハザマ支部 有馬 幸山

平成十一年、岳精会に入会以来十五年経ちました。当時は北青山の旧ハザマ本社地下の日本間（女子職員のお茶、お花の稽古場）で飯田、鈴木両先生ご指導を受けた事を昨日のように覚えています。その後千代田も組織拡大、充実に三〇〇人を越えるまでに発展しました。事は、洵にご同慶に堪えません。ハザマ教場も外部の方が男女共多数入会され、昨年の十一月の温習会はお見事の一言に尽きます。元々、戦前から特に建設業界は志氣昂揚と精神修養のために詩吟が盛んでした。ハザマでも佐久間ダムに始まり、名古屋城、会津若松城の竣工式、梁川星巖墓前祭などに全国有志集結し、吟詠会が盛大に挙行された事を懐かしく想いだします。未年生まれ、古参に名を連ねながらまだまだ精進が足りないと感じています。

ます。悪条件を物ともせず吟に取り組んでおられる方の熱気にも唯々敬服するばかりです。過去に拘わらず、明日に迷わず、あるがままに今を生きよう―を生活信条として次の丁未の歳を目指し、無理をせず楽しく元気で詩吟を続けたいと念願しています。今後共宜しくご指導をお願いいたします。

今年 は 年女
日暮里 吉田 節子

満州で生まれ、何も判らず父母に手を引かれ引揚者として舞鶴港に着いた私も、早や今年は何回目かの年女。同期生と古稀の会で旧交を暖めてから二年。一年々々がとても貴重に思える歳になりました。

元々喉が弱くTVで吟が喉に良いと放送されていたのを見て、田尻先輩の紹介で日暮里教場に入会してから三年、いつもドキドキしながら吟が続けられるのは本多教場長始めご指導下さる諸先生、先輩の皆様、和氣藹々の吟友がいてこそその事です。次の年女が迎えられるかは分かりませんが、これからもあるか分かります。伝え奥の深い吟を老後これからはと、伝え奥の深い吟を少しだけでも理解し、それなりに楽しみながら続けられればと思っております。

詩吟入門経緯と広がった輪
ハザマ支部 三島 寿

社友会関東支部長の萩原晴風ハザマ教場長さんから、青葉台でカラオケ会があるので行ってみたいところ、加藤虎風さんの迎えを頂き、会には功刀蒼風、有馬

幸山、犬飼勇山の皆さんがお集まりでした。その時、何か感ずるものがありました。詩吟への誘いがあって、萩原さんから詩吟入門の誘いがあって、成程と納得し、あつた城戸龍城、中川春風、宮澤修風、二宮祥風、丸山育山、石田勝山、山、中内博山、関川慶山、井田舜泉、清水鈴木、政山、二反田奉泉、宮永明彦の皆さんとの付き合いの輪が広がりました。詩吟、その後の食事と大変に楽しい雰囲気です。新年を迎えて更に精進致します。

ある夏の夜の吟
鎌倉 八幡 通正

私の住む地区に北条氏ゆかりの神社があり、夏の終りに祭礼が催されます。今夏は雨が多く、この日も小雨が時々降る天気でしたが、狭い参道脇に五軒程の屋台が出ており、境内では地元の人達や子供による歌や踊りが披露されていきました。終盤に吟詠が組まれており、女性五人、男性二人による合吟や独吟がテープ伴奏で始まり、スピーカーを通しての吟詠であり、迫力のある吟を期待して聞いていました。私が普段教場で聞いていない先生方が、どうも私に遠かに迫力のある朗々たる吟が聞けたさを感じた次第です。



詩吟を始めて何年にもなりますが、美しい声で吟ずる事ではなく、一つの音、一つの言葉の中に鋭く切り込み、その内奥に潜められた作者の心を吟じられたらと今も緊張の毎日です。

先生方に感謝し、また良き吟友との交わり、その為に健康管理に気をつけて吟の楽しさがこれからの人生です。

毎年十月に、人間ドックを受診して
います。検査の項目に「あなたの肺活
量は」という欄があります。今年の結
は「八〇〇cc」でした。試験器か
ら印刷された資料には「十八歳未満相
当」となっておりました。話した相
手は、殆どが「機械が狂っている」と
と反応し、事実を認めません。因に、
昨年「八〇一〇cc」一昨年は「五
三七〇cc」でした。
私が詩吟の指導を頂き始めたのが三
年前です。この間の腹式呼吸の成果で
あると自覚しています。「吟」につい
て教わることは、簡単には習得出来ま
せんがなぜか呼吸のみ成果が出ており
ます。
杜甫「曲江」から古希の由来を学ん
で既に二年です。今年はコンクールに
挑戦を考えています。
教場で頂く教材の選定、内容に毎回
感心し、感謝しております。
高校生時代の余り得意でなかった漢
詩を改めて学ぶことができ嬉しい限り
です。機会があれば、詠われている場
所を訪れ、景色を見ながら吟じたいと

願つております。
前述の通り「吟」の醍醐味と言うにはまだまだですが、面白さ、深い味わい、と言った感性が分かる程度に進んで行きたいと心しております。諸先生方、先輩の皆様の素晴らしい「吟」へと一歩でも近づくことを年頭にあたり心しております。

罐ヶ谷鶴岡
一二子

五十歳を過ぎてから趣味の舞踊と短歌を始めて廿年があつという間に過ぎ
てしまいました。毎月の短歌会に素晴
らしい声で吟詠される方がいらつしや
いまして、羨ましく思つておりました
コミセン祭りの会場で私達の短歌を
吟詠して下さつた鎌ヶ谷教場の皆様に
感動し、人会させて頂き、二年が過ぎ
ようとしております。まだまだ充分な
発声が出来ませんが、短歌会でも時々
は吟詠させて頂けるようになりますが、
毎日忙しく過ごしておりますが、詩
吟の教室で思いきり発声した後はとて
も清々しい気持ちになります。
今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

生れてより

未年六度 巡り来ぬ
まだまだ青春 活きて生きたき

吟樂を求めて

神樂坂 小林 照子

縁あつて、廿五年一月千代田岳精会
神楽坂教場に入会し、三年目を迎えま
した。
詩吟を始めるきっかけとなつたのは、
夫の詩吟への入会でした。入会時期も

流派も違いますが、互いに刺激し合っています。神楽坂には夫婦会員が三組もいます。家が、彼らに負けないように、教場で、頭張っています。

昨年、教場開設七周年で、記念の
会が開催され、宗家をはじめ、多くの
先生方・先輩方に出会え、その吟を聞
くことが出来て、幸せでした。
台風の影響で温習会が延期になり、
多くの吟友の吟を聞く機会を失いとも
残念です。

漢詩が好きなのは、月二回の教室が待ち遠しい。美声の先生の下、良い先輩・仲間にも恵まれ、頑張っています。毎回先生から同じ指摘を頂きますが、なかなか上手いきません。改善出来るように頑張りたいと思います。

六回目の年女の今、私は七本で吟じています。鍛えれば一番長持ちするのは声帯の筋肉だそうです。

これから学びの機会を多くし、生活も充実していきたいと思ひます。

七本で吟じ続けます。

出戻り再入会

平成廿六年五月に丸の内第二支部教
場（目暮里）に入会させて頂きました。
実は五年程前に一度入会したのですが、
仕事の都合で退会しました。従って今
回は出戻り再入会という訳です。どう
ぞよろしくお願いします。さて、この
度は末年の年男に困んでの原稿依頼を
頂き一言書かせて頂きます。

七〇歳到達を機に明治安田生命退職
後十年間お世話になった某企業の顧問
職を辞し再入会させて頂きました。が、
その動機は詩吟を生涯の趣味にしたい
という思いと、お世話になった丸二の

吟友との再会です。現在丸二八月四回
日暮里へ二回計六回通わせて頂いてお
ります。まだまだ諸先輩の吟には及び
ません。ですが、少しうまく吟ずるこ
とが出来たかなと思える時は嬉しいも
のですね。また昨年十月の温習会では
何度も練習した「峨眉山月の歌」を吟
じ自分ではあがつて余り良い出来では
なかったと思っていまして、いつも
ご指導頂いている岩崎先生に「今迄で
最も良かった」とお褒め頂いたのは嬉
しかったですね。
今後とも吟友との交流とお付合いを
深め、そして少しでも上手く吟ずること
ができるよう精進したいと思ひます。

今年の千支辛未によせて
ハザマ支部 鈴木 政山

私は昭和に生をうけて今年で八十四
歳になりました。顧みますと、昭和十
六年十二月八日、日本は大東亜戦争に
突入した年です。私はこれから世の中
が厳しくなると感じながら、中学校で
勉強したものです。
やがて、戦争は日本が約四年で敗戦
となつてしまひ、それから言うものは
戦後の混乱等よくも乗り越えて来た
ものだなと改めて感じたところでは
今、千代田の弘報に書くに当たり思
い、浮んで感無量なものがあつた。
以下省略。
私は、平成十八年十二月に千代田岳
精会に入会させて頂きました。そして
ハザマ教場詩吟同好会の一員になり、
詩吟を勉強する事を決心しました。教
場では廿五名程いて熱心に城戸教場長
のもとで、岳精流詩吟を吟じているの
を見て、実に感動致しました。それ以来
現役時代から趣味でやっていたマージ

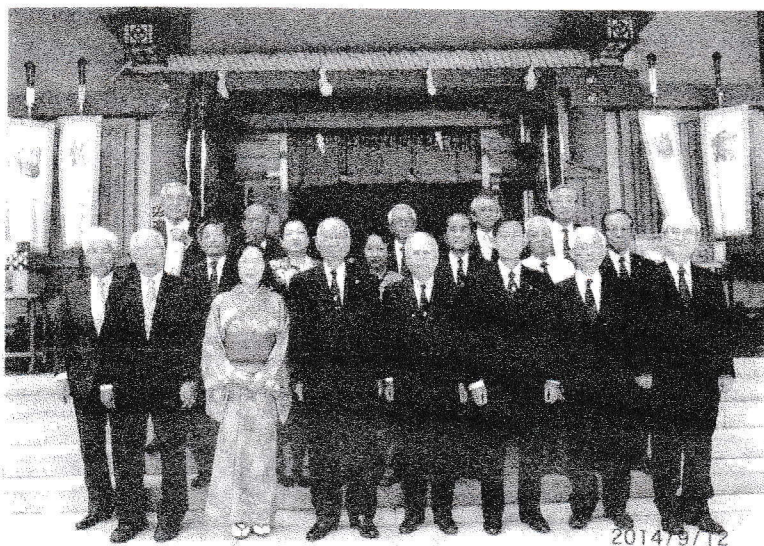
ヤン、ゴルフ、日本映画等を止めて、
これから人生を詩吟で楽しく生きて
行く事に心を決めたのです。そして月
三回の教場での詩吟勉強をして行く所
存です。
私は入会八年目に入つた昨年は、中
伝準師範の受験資格を得たので、十一
月三日受験しました。結果は鈴木会長
から多分合格でしようとお話を頂い
たので一安心して居るところです。こ
れからは岳精流吟道を学ぶ者として礼
と節を行行動の規範とし、吟の研鑽と品
性の陶冶に努めて参ります。そして宗
家信条の「真善美」をもつて吟道を歩
いて参ります。そして更に吟力の向上
と、千代田岳精会の発展に努力して行
きたいと思つて居ます。今後とも、会
長、諸先生方にはご指導を宜しくお願
い申し上げます。

教場だより

芝大神宮秋季大祭奉納吟
清水 星野 久風

九月十二日、清水教場では例年の行
事として芝大神宮の秋季例大祭に、参
集殿をお借りして練習している縁から
詩吟を奉納した。大祭は九月十一日か
ら廿一日迄の十一日間、長期間のた
め「芝明神のだから祭り」とも言わ
れている。
当日は、鈴木会長も参加され、十二
時から拝殿で神官による祝詞奏上、教
場長の玉串奉奠に続き、一人づつ神前
で精一杯吟詠した。
宮野信子「越中覽古」市倉妙子「寒梅
森坂雄三「平泉懷古」湯浅和美「春夜
洛城に笛を聞く」神谷知徳「壇之浦を

過ぐ「原口美泉「胡隠君を尋ぬ」桜田
謙泉「熱夜思」小島正泉「早に白帝城
を登す」鈴木秀泉「峨眉山月の歌」三
好弘泉「秋風の引」船津英山「潮来の
夕」望月輝山「涼州詞」大木栄山「某
楼に飲す」渡邊華風「静御前」星野久
風「鶴鶴楼に登る」細川修泉「望郷の
詩」徳本順風「秋思」村上龍道「法庫
門」菅中の作「最後は鈴木会長の問にも
で締めて頂きました。奉納者の間にも
拝殿前には頻繁に参拝者が訪れ、暫く
立止まつて聞き入つて下さつていた。



2014/9/12

◎千代田岳精会人事

一月一日付け

用賀教場教場長
鎌倉教場副教場長

竹下 賢二
鈴木 諭

廿六年度温習会
第二グループ台風襲来で延期

一昨年は、来年に迎える創立三〇周年大会に備え、三〇〇名体制の運営の経験新しい会員に積んでもらうことが最大の狙いの全体温習会でした。しかし、時の全体的に独吟で登壇するとは厳しく、プロック格差も出て特に新しい方々の不満が残りましたが貴重な体験だったと思います。今年、全員が合吟以外で登壇し、温習会本来の姿である「おさらい会」スタイルで二グループ開催となり、十月に二週連続で杉並公会堂で開催予定でしたが、二つ続いた台風の上陸で、第二グループが二月三日（火）に延期となり、第一グループのみが予定通り実施出来ました。それでも、新会員は連吟又は合吟でした。

『新会員紹介』

◇丸の内第二草加教場
田中 信行氏（八月入会）

加えて詩吟を始めると言うのだから鬼も逃げ出す仕儀となる。土木屋、技術力は折り紙付き。現役中の仕事の実績、勇名は各地に残る。浅草橋で若くして逝ったクラス仲間の奥さんが一人、切り盛る飲み屋「安兵衛」に月一、廿年以上続いている。倉隆雄氏の同級の仲間。得意のオケ同様急上昇間違いない。星シズさん（八月入会）
草加にお住まいです。若い頃からウグイス嬢として活躍された良い声、カヲケ、踊りと多才。特にプロ並の期待してはいます。楽しみに、吟も大いに

◇東陽町支部教場
本橋 英毅氏（八月入会）

神楽坂教場の勉強に大変熱心な方です。集を見て東陽町に入会されました。銀行を定年退職後趣味にと詩吟教室に通われた経験もあり、今後期待しております。

日野 儀光氏（八月入会）

神楽坂教場の会員募集のホームペーをジを通して本橋氏と一緒に入会されました。詩吟を勉強された経験もあり、今後期待しております。

◇中野教場
金井 俊夫氏（十一月入会）

清水建設〇Bで中央乃木会の理事をさせて頂いていることから、いつかは村上先輩の所に来ると予感しておりました。晴れて入会出来ましたので、皆様に少しでも付いて行けるよう精進し、技量の向上に努めたいと思います。

◇新陵教場
木戸 彪氏（八月入会）

趣味は？と問われて自信を持って答えられるモノは有りませんが、敢えて答えるならば、読書です。この度、先輩に勧められ、学生時代に聊か齧った詩吟を再開する事になりました。元々漢詩・詩吟には興味を持ちつておりますので、専心したいと思っております。

◇望月丸の内清流教場
望月 葉子氏（九月入会）

私は、父が琵琶をやっていた影響を聞き、子供の頃から琴、浪曲、声明等には深く関心を持ち、自分も詩吟は吟じてみたいと思いついて、近所の森山仙山

さんに出会い、菅原教場長のもとに入会しました。初めて先生の声を聴き、これこそ私が小さい頃から憧れていた声。詩吟そのものの「だ」と実感しました。そして事細かく、的確に分かり易く、指導上手な先生に更に感動しました。少しでも菅原先生の吟詠に近づけるよう頑張りたいと思っております。宜しくお願いします。

◆山口 朱風さん（代々木教場長）

平成廿六年九月四日逝去されました。平成廿年五月代々木分室を開設されました。享年八十三歳。ご冥福をお祈り致します。

◆高橋 辰風氏（鎌倉教場休会中）

平成廿六年十一月一日逝去されました。平成廿一年五月古都鎌倉に鎌倉分室を開設され、五年に亘り教場長として基礎を作り、多くの会員を育てられました。享年八十五歳。ご冥福をお祈り致します。

編集後記

今号で五〇号となりました。平成十二年に担当して十五年になりました。稿頂いた多くの会員の皆様に感謝致します。今後もご協力を願います。十四号から星野久風氏の描くスケッチの力となり、続いています。編集できるスタッフとを願っています。次号からの喫緊の課題です。甘周年記年号に飯田前会長が「千代の夢東京三〇〇名」と書かれていた。田の夢東京三〇〇名「と書かれていた。の停滯傾向の中で健闘を続けています。統へ向かっていきます。更なるステ